

今月の一言 12月というのに、紅葉の見頃がまだまだ続きます。ナイロビで開かれたCOP12では2013年以降の京都議定書見直しについて有効な結論が見出せなかったようですが、地球温暖化の影響は身近なところにも徐々に現れているように感じられます。(岡垣 晃)

Topics

- 12月11日(月)東京農工大学小金井キャンパスで行われる東京農工大学柏木孝夫教授還暦記念国際セミナーにおいて、松縄堅副会長が、「To Realize Factor X in Making up Eco-building and Eco-town」の講演を行います。
- 12月14日(木)～16日(土)東京ビックサイトにて、国内最大級の環境展示会であるエコプロダクツ2006が開催され、NSRIは日建設計のブースに出展します。今年で8回目となる同展は、環境ビジネスにかかわる人だけでなく、環境に関心の高い一般消費者や小・中・高校生も多数来場します。

中国流コンパクトシティ

中国では2006年から第十一次五カ年計画に基づき、新しい経済計画が始動しました。その大きなテーマは経済と環境保全の調和による持続可能な成長ですが、急速に進む都市化と環境保全対策の課題に直面しています。日建設計がこの春、現地法人(日建設計・大連)を設立した大連市での都市化の実態をご紹介しますことにより、我々が中国で取り組むべき課題を考えてみたいと思います。

大連市は中国北方の遼寧省の重要港湾都市で、面積12,574km²、行政区域人口600万人、市区人口290万人の大都市です。2005年末で外資系企業が約11,000社進出、その内日系企業が約3,100社で日本にとっても近い都市です。2004年のGDP伸び率は16%を超え、第十一次五カ年計画期間中にグレーター大連という現代化社会の実現を目指しています。

本年10月18日、大連市第六回環境保全大会で夏市長は、大連市が資源型・環境親和型社会及び生態型都市建設を加速するためには、都市環境総合整備が必要で、環境保全目標を達成すると報告しています。

大連市内では老朽化した建築物や街区の更新が急速に進んでおり、日建設計・大連の位置する沙河口区では、敷地面積170km²の大規模開発計画も進んでいます。20階以上の高層ビルが4000棟以上あると言われる上海ほどではありませんが、大連市の中心市街地(中山区、西崗区、沙河口区)にも高層ビルが林立しており、インターネットで現在募集されているオフィスビルの延床面積は約19万m²です。一方、この10年で着工されたものの建設中断しているビルは15計画で約89万m²もあります。日建設計・大連の隣接地にも躯体のみ完成して工事が中断しているビルがあります。郊外の開発区でも同じよう

な状況です。中断理由は様々ですが、多くの理由は資金面で、これらのビルの大部分は銀行の不良債権となっている訳です。また、床荷重の不足、エレベータの台数不足、設備容量の不足などで良好なストックとならないことも懸念されます。

大連市は山と海が近接して市街地が発展し、有名な中山広場を中心として古い建物も数多く残され、路線バスの他路面電車も現役で活躍するなど、数ある中国大都市の中でもコンパクトシティとしての可能性を持った都市です。

都市の多様性と魅力を高めるためには用途の混在、小ブロック化、古い建物の保存、高密度居住が重要です。急速に都市化が進む中で、早急な環境保全対策とともに、中国流コンパクトシティのあり方についてじっくり考えている時間は無さそうです。(新田恵一)

<大連市都心部の建設工事中断ビル>



定期配信をご希望の方

定期配信を御希望の方は、下記メールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

(chihiro.kimura@nikken.co.jp 担当: 木村千博)

編集後記

毎年向かいのお宅の“どうだんつつじ”の生垣が見事に紅葉するのを楽しませてもらっています。今年は母が「やけに遅くまで赤いわねえ」といぶかしむ様子に、はっとして、気候の変化を敏感に感じ取るセンサーは、世代が移るごとに鈍くなっているのを感じました。今の生活を見直すためにも欠かせないセンサーのひとつだと思います。(K)